



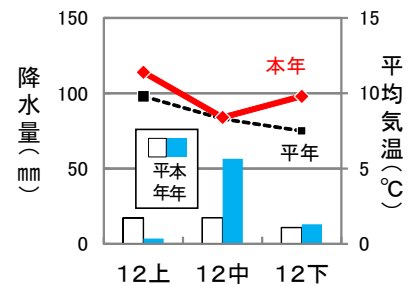
# 農作業一口メモ

(平成29年1月号)

鳴門藍住農業支援センター  
鳴門藍住地区農業生活指導班会

## 気象 <四国地方1ヵ月予報(12月31日~1月30日)>

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。  
向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。降水量は、多い確率50%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。  
(平成29年12月29日高松地方気象台発表より抜粋)



## だいこん <1月の管理について>



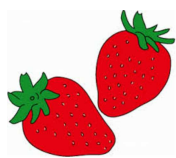
- 平年に比べ気温が高く推移したため、肥大が早くなっています。肥大させすぎないように適期に収穫しましょう。
- 黒斑細菌病やアブラムシの発生に注意し、早めの防除を心がけてください。

## にんじん <栽培のポイント>



- 斑点細菌病・菌核病は、低温多湿条件で発病が多くなります。早播きに発生が多いため、適期換気に努め、1月中旬から薬剤による予防を行いましょう。
- 本葉5~6枚頃に芯葉が埋まらない程度に充分土寄せし、青首を防ぎましょう。

## いちご <1月の管理について>



- 収穫が本格化し、株の負担が大きくなる時期です。
- 新葉の展開状況を中心に株全体を観察し、草勢が弱い場合はハウス内の保温や、電照時間を長くする他、定期的な施肥や、収穫後速やかに果柄や黄化葉を除去するなど、草勢を適切に保ちましょう。
- うどんこ病、灰色かび病、菌核病も発生しやすくなりますので、適期防除に努めましょう。

## たまねぎ <追肥を行いましょう>



- 地上部の生育が緩慢な時期ですが、この時期の施肥が春の生育・収量に大きく影響します。春からの本格的な肥大に向けて追肥を施しましょう。但し、窒素の過剰な追肥は生育の遅れにつながるため、葉色などを見て施肥量を調整しましょう。
- 冬場に乾燥させると、収量・品質に大きく影響するので、土壌の水分状態を見ながら、適宜畝間灌水を行ないましょう。

## なのはな <12月の管理について>



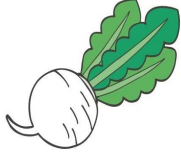
- 肥切れしないよう、月2回程度、1回に10aあたりリン硝安カリ、またはNK化成を20kg追肥しましょう。過剰になると死に花ができやすくなります。生育を見て加減してください。
- 頂花蕾は早めに摘心、または収穫し、わき芽の生長を促しましょう。適期のつぼみを収穫しましょう。花を咲かせると樹に負担がかかります。

## ブロッコリー<定植後の管理について>



- 花蕾が500円玉くらいになる時期までに、2～4回に分けて追肥を施しましょう。
- 早めの防除を心がけましょう。特に外葉にべと病の病斑が見られる場合は、組織内べと病の発生に繋がるので必ず防除しましょう。

## かぶ <収穫の注意点について>



- 晩秋・冬播きのトンネル栽培の収穫が始まります。小かぶは6cm程度、中かぶは12cm程度で順次収穫しましょう。
- 厳寒期の収穫では朝に葉が凍ることがあります。収穫は茎葉の氷が溶ける朝9時以降か夕方に行い、茎葉に傷がつかないように注意しましょう。

## レタス <定植後の栽培管理について>



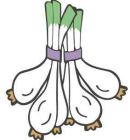
- トンネル内が30℃以上になると、高温障害が発生しやすくなります。天気の良い日には、トンネルの南や東側を何か所か開放し、日中の適温状態を保つようにしましょう。また、午後には少し早めから閉めて、夜中までの温度をなるべく保つようにしましょう。

## れんこん<土壌分析を行いましょう>



- 収穫の終わったほ場から土壌分析を行い、土壌中に肥料がどの位残っているか把握し、効率的な施肥に努めましょう。
- 石灰の施用量が多い傾向にありますので、土壌の石灰濃度とpHに注意しましょう。

## らっきょう<1月の管理>



- 小玉の2回目の追肥がまだの場合は、早めに追肥をしましょう。
- 球の露出による緑化で商品価値が低下しないよう、土寄せしましょう。

## ～土壌くん蒸剤(クロルピクリン・D-D剤等)を安全に使用するために～

- カンショ栽培に向けて土壌くん蒸剤を使用する時期となりました。カンショ栽培を行うためには必須な薬剤ですが、使用される農家自身や周辺の住民への危被害が問題になることもあります。注意事項を守って、事故の発生がないように正しく使用してください。

### 【注意事項】

- 土壌くん蒸剤を使用する時は、圃場周辺や近隣へ連絡するなど、十分に配慮しましょう。とくに住宅付近では十分に注意しましょう。
- 作業を始める前に、必ず注入機が正常に作動するか確認しましょう。
- 必ず正しい防護衣・保護具を着用してください。また作業中に臭気を感じたら、すぐに吸収缶を交換しましょう。
- 作業中およびくん蒸中に、圃場に人や家畜が立ち入らないように注意しましょう。
- 暖くなる3月上旬頃までに風のある日を選び、風向きに注意して散布して下さい。
- 空き缶は、使い切って周囲に影響のない場所で、倒れないように逆さまに置き、薬臭が完全に無くなるまで放置してください。
- 使用後の空き缶は、お住まいの地域で定められた方法で、原則、産業廃棄物として処分してください。

鳴門藍住農業支援センターのホームページでも掲載しています。

[http://www.pref.tokushima.jp/shien/naruto\\_aizumi/](http://www.pref.tokushima.jp/shien/naruto_aizumi/)

※提案・お問い合わせについては、鳴門藍住農業支援センターまで

電話番号：088-692-2515